

# アイリス Letter

## 保護者の皆様へ

2023年10月2日発行  
第5号  
広島女学院中学高等学校

### 聖書のことば

見よ、兄弟が共に座っている。  
なんという恵み、なんという喜び。

詩編 133 編 1 節

8月30日から始まった2学期ですが、早1カ月がたちました。日が暮れることの早さに驚くばかりですが、相変わらず天候はいつものようではありません。保護者の皆さまは、健康は守られておられるでしょうか。

9月7・8・9日に、中2チャレンジキャンプがあり、4年ぶりにテント泊を行いました。生徒のみなさんも不安があったと思いますが、私たち教師も緊張感を持って臨みました。7日の朝、ゲンスホールに入る中2の生徒を、高1・2のリーダーが拍手をして迎えていました。リーダーの温かい心づかいに本当に感激しました。私は、キャンプに同行しませんでしたので、山の中のもっと感激する話はできません。しかし、私が思っている以上の経験をしたと思います。9日に帰ってきた生徒たちの顔は、新しい自分になったという輝いたものになっていました。そんなリーダーと中2の生徒がゲンスホールの椅子に座る様子は、まさしく「なんという恵み、なんという喜び」と心から思えました。

チャレンジキャンプという、大きな行事だけでなく、毎日の学校生活の中で、教職員、生徒すべての人が、共に取り組んでいる姿があふれています。それは、当たり前と言えそうですが、そこに込める一人ひとりの思い、また、その生徒たちを支える保護者の方々の願い、そういうものが生み出す、大切な時なのだと思えます。

もちろん、ご家庭の中にも、豊かな時が流れていることでしょう。大切な人と大切な時を共にもつというこれ以上ない恵みと喜びに感謝する2学期としていきたいと思えます。

(校長)



## 8・6 平和祈念式・平和記念礼拝（被爆 78 周年）

8月6日午前10時より、ご遺族・関係者の方をお迎えして「平和祈念式」が行われました。中学茶道部の献茶、中学礼拝委員会の各クラスで折った千羽鶴の献納、追悼の言葉を三谷院長先生・竹内路子同窓会長、女学院在校生を代表して中学3年3組のI. Hさんが述べ、最後に中学YWCA部のハンドベル演奏を聴きながら献花をしました。関西学院大学の学生などが参列しました。



午後1時30分からは、中1、中3、高2の生徒が出席し、「8・6 平和記念礼拝」を捧げました。講師の大塚善子さんは、広島女学院中学高等学校在籍中にキリストと出会いキリスト者となり、卒業後は大阪にある中高の国語科の教諭として働かれました。被爆前の4歳の際に疎開され被爆の体験はありませんが、当時広島の中学校に勤務していたお父様の体験の話やご家族・親戚の方々の被爆経験を用いて、原子爆弾の投下による被害やその被害による差別など、戦争がもたらした実像について、貴重な話を語ってくださいました。

（宗教教育委員会）

### ◇ 8・6 平和祈念式 I. Hさん 追悼の言葉（全文）◇

私は、広島生まれ、広島育ちで、幼い頃から平和学習を行ってきました。しかし、中学生になって新たな平和学習を進めていく中で、今までの私の平和学習には何か欠けていることに気づきました。そのきっかけは、聖書です。女学院での平和学習と、聖書は、私にとっての「平和」を語る上でなくてはならないものです。その2つの要素を抑えながら、私にとっての平和とこれから取って行きたい行動を、お話したいと思います。

まずは、聖書についてです。聖書を本格的に読む前は、神様やイエス様のことが詳しく書かれている書物だと思っていました。しかし、実際に聖書を学んでみるとそうではなく、弱い人間が中心として書かれていました。そのような聖書の話の中で、「放蕩息子」という例え話があります。この話では、「人間はみんな罪人（つみびと）である」という教えが、親子を通して描写されています。この話は、今でも、強く自分の胸に刻まれています。なぜなら、これをきっかけに「自分も罪人（つみびと）の一人であるのだ」という、当事者意識が芽生えたからです。「自分は罪人（つみびと）である」と思ったことがなかった私にとって、驚きと残念な気持ちが、複雑に入り混じった気持ちになりました。1年生のときに学んだこの聖書の教えがずっと胸に引っかかり、2年生になってもそれは変わりませんでした。

そんな中、平和学習で、日本以外の国における、原爆投下に対する考え方を学びました。特に私にとって忘れられなかったのは、アグニュー博士と被爆者の対談の様子です。アグニュー博士とは、アメリカの原爆開発のプロジェクトに参加したアメリカの物理学者です。彼の言葉で一番心に残ったものが、「私は謝らない。」です。この言葉を聞いたときに、私の中には「失望感」が生まれました。なぜなら、「人間は罪人（つみびと）である。」という聖書の教えが頭に浮かんできたからです。アグニュー博士の発言から、人は立場によっては人を殺してもそれを悪事だと思わないことがあることを知りました。そこで、人間が人間を大切にできないように、私は罪を感じました。その瞬間、今まで文面でしか見たことがなかった、

聖書の教えが、一気にリアルになったように思いました。私は、「そのような社会で、人間はやり直せるのだろうか。」という失望混じりの問いが浮かんできました。

しかし、そこで諦めるのではなく、平和へ近づくために何か手をうつ必要があると思いました。聖書の教えと、アメリカの原爆投下に対する見方。それらから見出した、平和へ近づくための手段は、「人間同士で向き合い、お互いの細かい部分を知っていくこと。」です。今まで話した内容も踏まえ、そう思うに至るまでの経緯をお話したいと思います。まず、先程話した「放蕩息子」を初めて知ったときに、悪いのは弟だけだと思いました。なぜなら、彼は遊び呆けて、父親から与えられた財産を使い果たしていたからです。それに比べて、兄はきちんと働いているように思いました。私は、そのような兄は、何も間違っていないように思いました。しかし、実際に兄は話の中で、父親に不満をぶつけています。遊び呆けて帰ってきた弟を、父親は歓迎していたからです。視点を変えると、兄も弟と同じ、父親に背く存在に、一気に変わりました。そのことから、立場や視点によって、驚くほど自分の常識が覆されることを実感しました。

それに加え、アメリカの原爆投下に対する考え方を学んだときにも、同じことを実感しました。私はずっと、原爆投下は間違っていると思っていました。しかし、「広島」という枠を越えて当時の原爆投下を見つめたとき、原爆投下を正当化する考えに必ず出会います。ここで私は、自分にとっての「正しい」と他の国や人物の「正しい」は全く異なっていることを理解しました。戦争は、「お互いが「正しい」と思ってやっている」という話は何度も聞いたことがあります。しかし、私も同じように思い込みをしていることには気づきませんでした。私ひとりだけの思い込みは、世界全体から見ると、とても小さなものだと思います。しかし、戦争は、ちょっとした誤解でも起きうる可能性があります。だから、自分はとても危険なことをしていたことに気が付きました。また、それと同時に、この危険な思い込みをなくす必要があると思いました。

では、そのような「正しい」という思い込みを避けるにはどうしたら良いのでしょうか。まず、結論から話すと、相手の心情に寄り添うことが大切だと思います。人間の心情はとても複雑で、短時間で理解できるものではありません。だから、相手の心情は、膨大な時間をかけてでも手探りで考え続ける必要があります。そうして初めて、相手の心情が見えてくるのではないのでしょうか。相手の心情を理解することは和解に繋がります。言わば、戦争はとても大きな対立です。その対立を避けるためには和解をする必要があります。もし、今地球上で起きている対立を全て和解に変えることができれば、それは平和の実現につながると思います。

私が思う平和な世界とは、人間1人1人の思いに真摯に向きあえる世界。そして、そこに希望を与えられる世界だと思います。聖書では、罪人（つみびと）において、「赦し」が唯一の希望とされています。私は神様のように、無条件に全ての人を赦せる自信はありません。そんな私は、ひとりひとりの人間の心情を理解しようとするだけでも、平和な世界へと繋がられると思います。とにかく、戦争によって恐怖にさらされている人たちのために、何か希望を与える必要があります。私はこれから、原爆投下は二度としてはならないとする考えを広めていきたいです。そして、ひとりひとりの被爆者の思いを自ら、紡いでいきたいです。私のそうした行動が未来への希望になってくれることを、切に願っています。

## English Trip 2023

On July 26th and 27th, the second annual English Trip was held in the high school chapel. We saw more than sixty students from seventh and eighth grade participate. There were ten English activities that taught students about Australia in an active and engaging way. One big change this year was that the junior high school English Club hosted and ran all of the activities by themselves. Having the English Club students help their peers learn about Australia created an energetic and enjoyable learning environment. We are looking forward to having this event again next year.

(7月26日～27日、高校チャペルで第2回 English Trip が実施され、中学2年生・1年生の60名以上が参加しました。オーストラリアに関する10のアクティブかつ魅力的なアクティビティが行われました。今年の大きな変化は、中学英語部がすべてのアクティビティを自分たちで主催・運営したことです。英語部の生徒たちが、オーストラリアについて学ぶ同級生たちの手助けをすることで、エネルギッシュで楽しい学習環境が生まれました。活動に参加してくれたみなさん、ありがとうございました。来年もこのイベントを開催できることを楽しみにしています。)

(英語科)

## GEC活動報告

夏休みの間に、たくさんの生徒の皆さんが国内外の行事やプログラムに参加し、また国内外からたくさんのゲストをお迎えして交流の時間をもちました。

### (1) 研修プログラム

#### ① Critical Issues Forum(CIF)

参加生徒：高校2年生 2名

日程：7月26日～8月1日

訪問先：アメリカ (カリフォルニア)

「核軍縮と核不拡散のために、若者の教育にどのように横断的なアプローチをしたらよいか」についてプレゼンテーションをしたり、アメリカの高校生とディスカッションを行いました。

#### ② UCL Japan Youth Challenge

参加生徒：高校1年生 1名、高校2年生 2名

日程：7月20日～7月31日

訪問先：イギリス (ケンブリッジ、ロンドンなど)

世界のトップ大学であるケンブリッジ大学、University College London (UCL)などを訪問し、今年のテーマである『レジリエンス (回復力)』についての講義を聴き、現地の高校生と一緒にディスカッションやプレゼンテーションを行いました。

#### ③ 海外生活体験学習

参加生徒：中学3年生 6名、高校1年生 11名

日程：7月29日～8月12日

訪問先：オーストラリア（メルボルン）

3年ぶりにキルビントン・グラマースクールを訪れ、英語やその他の授業を体験したり、課外授業に参加しました。また各ホストファミリーに大変温かく迎えていただき、忘れられない経験をさせていただきました。

#### ④ イオンアジアユースリーダーズ

参加生徒：高校2年生 2名

日程：8月21日～26日

研修先：東京

日本各地の高校生、および中国・ベトナム・カンボジア・ラオス・インドネシア・マレーシアの高校生が集い、共同生活をしながら環境や開発についてディスカッションやプレゼンテーションを行いました。

### (2) 交流イベント

#### ① Peace Forum

8月7日にPeace Forumが行われました。「Nuclear Issues and the Environment」というテーマのもと、核問題と環境との関係について学び、考えました。今年の参加校は、忠南外国語高等学校、関西創価高等学校、長崎東高等学校、沖縄尚学高等学校、創価高等学校、玉川聖学院高等学校、ウェストリッジ・スクール、広島女学院の7校です。初めに、核技術に関する問題に取り組んでおられる歴史学教授のロバート・ジェイコブズ先生のお話を聞き、午後からはグループに分かれて他校の生徒とディスカッションをしました。社会や企業、地域や個人に何ができるのかを考え、各グループから出た意見を発表しました。閉会式後には生徒同士で自由に交流する時間もあり、平和な世界構築を目指す仲間との絆を深めることができました。 (高2 GI 選択生)

#### ② 碑めぐり

7月26日 米国アメフト連盟

8月2日 香蘭女学校

8月5日 敬和学園高校、共愛学園高校、立命館宇治中学、関西創価高校

8月8日 玉川聖学院高校

約80名の中3～高2の生徒が1学期から事前学習を重ね、約150名の国内外からの中高生に向けて碑めぐり案内を実施しました。また、女子学院高校の高1ヒロシマの旅の事前学習のために、碑めぐり動画も作成しました。

#### ③ 青梅・羽村ピースメッセンジャー

8月4・5日に、東京の青梅市、羽村市の中学生を迎え、碑めぐりや江波山気象館などでフィールドワークを行いました。15名の中3生徒たちが、「広島の中学生」として何を発信していけるか考えながら時間をかけて準備をした成果を発揮し、とてもよい交流の時間を持つことができました。

#### ④ 署名活動

7月31日～8月1日、3日～5日の5日間にわたり、金城学院、修道高校、盈進中学高等学校、松陰中学高等学校、プール学院、平安女学院、山陽学園の皆さんと一緒に、核兵器廃を求める街頭署名を行い、約1400筆の署名が集まりました。猛暑の中、街頭署名に参加して下さった皆さん、署名をして下さった皆さん、ありがとうございました。

なお、署名実行員会では今後も街頭署名を行い、3月末までに集めた署名を国連に送ります。ご協力よろしくお願ひいたします。

(グローバル教育推進部)

#### 中学1年父親母親教室

9月2日(土)、中1父親母親教室が行われました。まず本校カウンセラーから“親と子が幸せになる「XとYの法則」－「待つ」ということ－”と題し、思春期の子どもへの親の接し方について話があり、それを受けグループに分かれての話し合いに移りました。そこでは、家庭での時間の使い方やPCの扱いについて、また親としてどのように見守るべきかといった意見が出されるなど、各グループで活発な話し合いが行われその思いを共有されていました。

中1にとっては1学期を過ごしたとはいえ、まだスタートしたばかりの中学校生活です。私たち教師は保護者の方々とともに、生徒一人ひとりを見守り、支えていきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

(中学教頭)

#### 鑑賞行事

9月5日(火)にゲーンズホールに於いて、広島交響楽団の皆さまをお招きして音楽鑑賞会が開かれました。ホールに足を入れると、目に飛び込んでくるたくさんの楽器、耳に入ってくる音色。そこはまるで音楽ホールのように、生徒たちの喜びの声と共に一瞬にして心を奪われました。プログラムは中高それぞれ60分で、ロッシェニ作曲「ウィリアム・テル」序曲～スイス軍の行進、ブラームス作曲「ハンガリー舞曲第5番」などよく知られている曲を中心に演奏して下さいました。また楽器紹介や指揮者体験コーナー、「ラデツキー行進曲」の手拍子



などオーケストラの方々と触れ合う時間もあり、全身で音楽を感じるひと時を過ごしました。最後に高校生徒会のS.Aさんが「たくさんの国の楽曲を聴いて、世界旅行をしているみたいでした。」とお礼の言葉をお伝えし、幕を閉じました。

実は、今から40年前の1983年4月25日にゲーンズホール オープニングコンサートとして、広島交響楽団による演奏が行われた記録が残っています。時を経て、このホールでオーケストラ

の演奏を聴けたことをうれしく思うのと同時に、またこのような機会をみなさんと一緒に持てたらと願っています。終演後に広島交響楽団の方から「生徒の皆さんが盛り上げてくださり、楽団員も演奏に熱が入っておりました。」とメッセージを頂きました。演奏はもちろんですが、聴衆としての皆さんも素敵でした。

(音楽科)

## 中2チャレンジキャンプ

9月7日(木)～9日(土)の3日間、中学2年生は、恐羅漢エコロジーキャンプ場にて「チャレンジキャンプ」を行いました。宿泊を伴う「チャレキャン」は4年ぶりとなります。

1日目は二軒小屋からキャンプ場までの約3kmの歩行です。2日目の山登りに向けた「準備運動」といった感じで、高校生リーダーと共に楽しそうに歩いていました。

その後、テントを張り、夕食の準備を進めました。なかなかかまどの火がつかなかったり、飯盒で炊いたご飯が固かったり、スープのようなカレーになったりと、トラブル続出でした。しかし、みんなで協力してつくったカレーライスは美味しさ100倍でした！



2日目は、いよいよ広島県最高峰の恐羅漢への登山です。「壁」のように立ちはだかるゲレンデを克服し、ブナやミズナラの原生的な森林のアーチをくぐりぬけ、約2時間をかけて山頂へ。自らの「壁」にチャレンジし、乗り越えた達成感と笑顔であふれていました。また、満天の星空の下で行われたキャンプファイヤーは幻想的で、燃え上がる炎と秋の虫の鳴き声に満たされた空間で過ごしたひと時は、それぞれの内なる「壁」と向き合う時間になりました。

解散式では、共に過ごしたクラスメイト、そして高校生リーダーとチャレキャン全体を振り返りました。リーダーへの感謝を言葉にしながら涙する中2、また、妹のように接してきた中2との別れを惜しむリーダー。中2だけでなく高校生リーダーも含めた全員が、何かに「チャレンジ」し、「成長」を遂げた3日間となりました。

このキャンプを陰で支えてくれたのは、高校生リーダーです。4月からのEPで約10時間、7月のリーダーキャンプの2日間、中2の成長を支えるサーバントリーダーとして、研修を進めてきました。このリーダーの献身的なサポート無くして、中2のみなさんの「成長」はありえません。本当にありがとうございました。また、さまざまな不安を抱えながらもこの学校行事に送り出してくださった保護者の皆様、企画・運営に携わってくださった関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。



(中2学年会)

## 保健室だより（5）

蒸し暑い夏から、朝夕と少しずつ涼しくなってきました。疲れと寒暖差から体調を崩しやすくなっています。頭痛、腹痛等で保健室を訪れる人が増えたように感じます。疲れや痛みを感じたら無理せず休みましょう。無理をしないことも健康管理では大切なことです。

10月1日から制服が夏服から冬服に変わります。衣服の着脱により、各自が温度調節できるよう準備しておきましょう。また秋を健やかに過ごすためには「質のよい睡眠、栄養バランスの整った食事、適度な運動、体を冷やさない」を心がけていきましょう。

（保健室）

## 心の健康（5）

秋たけなわの10月は気候がいいので、学校でも町内でも行事が多くなります。行事に参加すると、どうしても他の人に気を使い、人間関係のことで頭がいっぱいになります。人との交流は楽しいし喜びを感じ、やる気が出てきます。また体を動かし行動することが多いので、充実感や満足感を得ます。だけどそれだけでなく、とても疲れます。心も体も疲れます。活動の後には休息を！外の世界に心を向け行動した後は、静かに自分の内面に向かい合う。この活動と休息のバランスに配慮したい10月です。中・高生は家庭でいろんな姿で疲れを示し回復しようとしています。寝てばかり、ダラダラしたり、イライラしたり、やたら食べたり、喋りまくったり、と。大人は慌てないで、バランスの視点を持つことで状況を理解していきましょう。



（カウンセラー）

## 生徒の活躍

### ◇中学合唱部

- ・第90回NHK全国学校音楽コンクール広島県コンクール(8月9日)  
金賞 中国ブロックコンクールへ進出
- ・第62回広島県合唱コンクール(8月11日) 銀賞 中国合唱コンクールへ進出

### ◇高校音楽部

- ・第90回NHK全国学校音楽コンクール広島県コンクール(8月9日) 銀賞
- ・第62回広島県合唱コンクール(8月11日) 銀賞

### ◇中高マンドリン部

令和5年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール  
優秀賞ならびに朝日新聞社賞（第2位）

### ◇中高吹奏楽部

第64回広島県吹奏楽コンクール  
高校小編成部門 金賞  
中学A部門 銅賞

◇高校放送部

- ・第64回 NHK 杯全国高校放送コンテスト広島県大会 テレビドキュメント部門  
作品名「Say My Name」 最優秀賞 全国大会へ進出
- ・第70回 NHK 杯全国高校放送コンテスト テレビドキュメント部門  
作品名「Say My Name」 制作奨励賞
- ・第47回全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）放送部門出場  
作品名「住職、きょうの『言葉』はなんですか？」

◇中学卓球部

3-4 U. A

- ・第54回広島県中学校卓球選手権大会 個人戦ベスト8
- ・第48回中国中学校卓球選手権大会出場

◇3-5 M. M

- ・第56回 カワイピアノコンクール 全国大会 連弾部門 大賞
- ・第47回 ピティナ・ピアノコンペティション 全国大会 連弾部門 銀賞

◇2-B K. U

第11回 広島県高校生韓国語スピーチ大会 銀賞

◇2-D N. M

第47回 ピティナ・ピアノコンペティション 全国大会 F級 入選



## 今月の聖句

わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。あなたがたが、何かにつけわたしを思い出し、わたしがあなたがたに伝えたとおりに、伝えられた教えを守っているのは、立派だと思います。

コリントの信徒への手紙一

11章1～2節

女学院に連なる一人ひとりのマイストーリー (My Story) が女学院のアワーストーリー (Our Story) となって、そのアワーストーリーは女学院のヒストリー (History) となり、137年の時を亘った今もなお伝えられています。

如何なる変容の波風に立たされた時でさえ、そのマイストーリーたちがかけがえのない存在であり、神様の御旨である所存には再考察の余地もないことを、女学院の歩みを通して今も伝えられています。大切なのは、こうして伝えられた教えの原点も、女学院の歴史 (History) も、今を精一杯生きている皆さんについて語っていることです。

(聖書科K)

## 10月の行事予定

1	日	創立記念日 冬服更衣 秋学フェスタ
2	月	
3	火	高2修学旅行 7限 高1PTS (選択科目)
4	水	中3研修旅行 <b>[NC]</b>
5	木	中1バイブルデイキャンプ(4限～)
6	金	中1・2、高1・3遠足
7	土	振替休日(9月30日(土)) 高3ベネット駿台記述模試
8	日	
9	月	スポーツの日
10	火	7限 高2PTS (選択科目)
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	<b>木曜授業 1限8:55～</b> 中間テスト(高2・3)
18	水	(中1・2・3、高1) <b>1限8:55～15分休憩</b>
19	木	<b>1限8:55～15分休憩</b>
20	金	<b>1限8:55～15分休憩</b>
21	土	<b>(L・総)</b>
22	日	高1・2駿台全国模試(希望者)
23	月	中3(午前) 中学総合模試、 <b>5、6限授業</b>
24	火	
25	水	<b>[NC]</b>
26	木	
27	金	
28	土	中間テスト素点確認 <b>(L・総)</b>
29	日	
30	月	高3ベネット駿台マーク模試
31	火	<b>木曜授業</b>

NC・・・ノークラブデー

※行事予定は変更になることがあります

